

09/09/15 22:28

NJ007 時事通信

◎消火器が破裂、男児重体＝駐車場に放置され腐食－ピンに触れた際に・大阪

15日午後4時55分ごろ、大阪市東成区中本の駐車場でドカンという音がし、子供が倒れていると110番があった。大阪府警東成署員が駆け付けたところ、近くに住む自営業翁長良光さん（48）の長男で同市立中本小4年宥之介君（10）が右側頭部から血を流して倒れており、病院に運ばれたが意識不明の重体。近くで破裂した古い消火器（高さ約50センチ、直径約17センチ）が見つかり、同署は何らかの原因で破裂し破片が頭に当たったとみて調べている。

同署によると、現場は月決めの屋外駐車場で、古い消火器が4本置いてあった。目撃者の話では、宥之介君が消火器のピンに触ったところ、飛び上がるよう破裂したという。

消火器は底面部分と胴体部分が分離した状態で、胴体部分は置いてあった場所から約10メートル離れた場所に落ちていた。断裂面はさびなどで腐食していた。

事故当時、同級生の男児（10）もそばにいたが、けがはなかった。消火器は駐車場を管理する50代の男性が不要になったために1990年ごろから放置していたという。

消火器は「ヤマトプロテック」（東京都港区）社の「ヤマトYAM-20R」。大阪市消防局によると、89年製造だった。

現場はJR大阪環状線森ノ宮駅南東約900メートルの住宅街。（了）

Copyright © JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

09/09/15 23:27

NJ064 時事通信

◎腐食で圧力耐えられず破裂か＝粉末加圧式、製造元注意呼び掛け－消火器破裂

大阪市で屋外に放置されていた消火器が破裂し男児が重体となった事故で、破裂した消火器の製造元「ヤマトプロテック」は、取材に対し、「容器がさびていたところに内部の圧力が高まり、耐えられずに破裂した可能性が高い」との見方を示した。同社は「外から見て異常がなくても、古いものは必ず交換してほしい」と呼び掛けている。

同社によると、破裂したのは「粉末加圧式」と呼ばれるタイプの消火器。容器内に高圧ガスが封入された小さな加圧用ガス容器があり、その回りに粉末消火剤が充てんされている。安全ピンを抜きレバーを握ると、加圧用ガス容器に穴が開き、圧力で消火剤を噴出させる仕組みになっている。

消火器の耐用年数は8年。古い物は販売店などで引き取っているが、耐用年数を知らない顧客も多いという。現在販売されている消火器は側面に耐用年数や注意事項などが記載されているが、1995年以前に製造されたものには記載がない場合もあるという。

大阪市消防局によると、古い消火器の破裂事故は過去にも起きており、2001年には北海道と愛知県でそれぞれ死者が出る事故も発生。同消防局は「消火器を野ざらしにするのは避けてほしい。外に設置せざるを得ない場合は、耐用年数に満たなくとも早めに交換してほしい」としている。（了）

Copyright © JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.

消火器が破裂し、消火剤が白く残る現場—大阪市東成区で
15日午後7時22分、小松雄介撮影



15日午後4時50分ごろ、大阪市東成区中本4の駐車場で、放置されていた消火器4本のうち1本が破裂し、近くの自営業、翁長良光さん(48)の長男宥之介君(10)が市立中本小4年2の頭部を直撃した。病院に運ばれたが意識不明の重体。消火器は約20年前から雨ざらしのまま置かれていたといい、内部は腐食していたとみられる。大阪府警東成署が、破裂した原因を詳しく調べている。

した消火器はヤマトプロテック(東京都)製の粉末加圧式消火器(高さ55cm、直径17cm)。1989年に製造され、重量は10kg前後ある。宥之介君が駐車場内で遊んでいた際、消防器の安全栓のピンを触っていたのを、一緒にいた同級生が見ており、その際に消防器が破裂したとみられる。

近づいていたのを、一緒の北東隅の壁際に置いたという。近づいていたのを、一同は「大きな音が鳴ったことから、駐車場の北東隅の壁際に置いた」という。近づいていたのを、一同は「大きな音が鳴ったことから、駐車場の北東隅の壁際に置いた」という。

性(52)は「大きな音が鳴ったことから、駐車場の北東隅の壁際に置いた」という。

して、駐車場に行くと、白い煙が立ち込めていた。男の子が頭から血を流して倒れていた」と驚いていた。

総務省消防庁による報告によると、消防器が破裂する事故は毎年数件報告されている。ほとんどは主流の「粉末加圧式」タイプ。古くな

事故は毎年数件

総務省消防庁予防課によると、消防器が破裂する事故は毎年数件報告されている。ほとんどの主な原因は「粉末加圧式」タイプ。古くな

た場合が何らかの衝撃を受けると、内部の圧力に耐えられず、底が抜けて破裂する。

01年にはハンドル操作をしたときに破裂し、使用者が死亡する事故が2件あった。同

課は「老朽化した消防器は落とすなどして衝撃を受けると破裂する。古くなったら廃棄してほしい」と話している。

3月16日(25) 消火器破裂 小4重体 頭部直撃 雨ざらしで腐食?

大阪・駐車場

った容器が何らかの衝撃を受けると、内部の圧力に耐えられず、底が抜けて破裂する。01年にはハンドル操作をしたときに破裂し、使用者が死亡する事故が2件あった。同課は「老朽化した消防器は落とすなどして衝撃を受けると破裂する。古くなったら廃棄してほしい」と話している。

15日午後4時50分ごろ、大

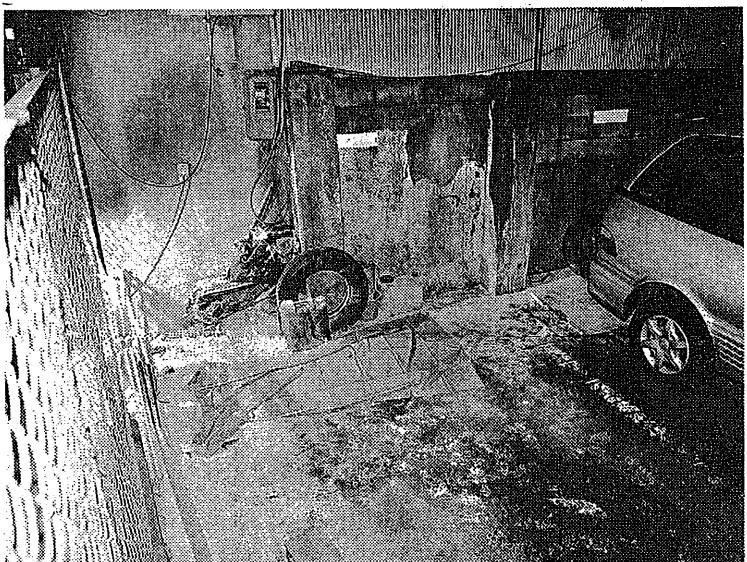
阪市東成区中本にある駐車場に置かれていた消火器が破裂し、近くにいた小学4年翁長有之介君(10)が東成区の頭に一部が直撃、病院に運ばれたが意識不明の重体となつた。

東成署によると、破裂したのは、不用になつて駐車場の管理者が置いていた4本のうち1本。翁長君は下校途中で、同級生と2人で消火器の安全ピンをさわるなどして遊んでいたとみられる。同級生にけがはなかつた。

消防署は約20年前に製造されたもので、十数年前から駐車場の隅に置かれていた。底が抜け、周囲が腐食しづびた状態だつたといい、東成署が破裂の原因を調べている。

消防署によると、8年間で交換するのが望ましく、屋外に長期間置くと腐食で容器の強度が弱まり、破裂の危険もあるため、格納箱に入れるなどの管理が必要と指摘。「古い物は処分してほしい」としている。

破裂する状況を目撃した近



置かれていた消火器が破裂した駐車場=15日午後7時45分、大阪市東成区

所の小学3年の男児(9)は「ドカン」という音がして駐車場を見ると、男の子が倒れていた。破裂した勢いで消火器が転がり、転がっていくのを見た」と驚いた表情で話した。

現場はJR森ノ宮駅から南東約600㍍の住宅街。駐車場には消火剤が飛び散つたほか、血痕も残っていた。

消火器破裂 男児重体

朝9/16 大阪

20年前製造、腐食跡

15日午後4時55分ごろ、大阪市東成区中本4丁目の駐車場「NKモータープール」の近くに住む男性から、「消火器が破裂した」と119番通報があった。東成署によるところによると、翁長君(10)が頭に直撃され、病院に運ばれた。翁長君は下校途中で、同級生と2人で消火器の安全

ピンをさわるなどして遊んでいたとみられる。同級生にけがはなかつた。

消防署によると、消火器は20年前に製造されたもので、この事故で小学生男児1人が頭に直撃され、意識不明の重体となつている。消火器は20年前に製造されたもので、同署は破裂した原因や、管理上の問題がなかつたか調べている。

同署によると、けがをしたのは、近くに住む自営業翁長良光さん(48)の長男で、大阪市立中本小学校4年の翁之介君さん(10)。

一方、破裂した消火器は、2前の駐車場のフェンスを越えていた。消火器は高さ約

え、約10㍍離れた道路の反対側で見つかった。

同署によると、90年ごろからこの駐車場を管理していた男性は同署に対し、「管理入

りの責任で、駐車場に消火器を置く義務はない」といふ。また、耐用年数は消防法で定められていないが、各メーカーは一般的に8年をめどに交換を呼びかけていた。

翁長君は下校途中で、消火器

をさわるなどして遊んでいたとみられる。同級生にけがはなかつた。

消防署によると、事故現場のような屋根のない屋外の駐車場に消火器を置く義務はない。また、耐用年数は消防法で定められていないが、各メーカーは一般的に8年をめどに交換を呼びかけていた。

翁長君は下校途中で、消火器

をさわるなどして遊んでいたとみられる。同級生にけがはなかつた。

消防署によると、90年ごろからこの駐車場を管理していた

男性は同署に対し、「管理入

りの責任で、駐車場に消火器を置く義務はない」といふ。また、耐用年数は消防法で定められていないが、各メーカーは一般的に8年をめどに交換を呼びかけていた。

翁長君は下校途中で、消火器

をさわるなどして遊んでいたとみられる。同級生にけがはなかつた。

消火器破裂 小4重体

1989年製

報道

15日午後4時55分頃、大
阪市東成区中本の駐車場
「NKモータープール」で
破裂音がしたと、近所の女
性から110番があつた。

市消防局の救急隊員が駆け
付けたところ、近くの小学
4年、翁長宥之介君(10)が
顔から血を流して倒れてお
り、意識不明の重体。駐車場

ために薬剤を噴射して使い

切ろうと、夫が庭に持ち出
した。レバーがさびついて
いたため、力を入れてレバ
ーを引いたところ、底部分

が破裂し、反動ではね上がり
た消火器が下あごを直撃

した。底部分は激しく腐食
され、底が腐食していた。破
裂の直前、宥之介君が消火
器の安全ピンに触っていた
のを、同級生が見たといふ。
とみている。

同署の発表によると、破
裂したのは1989年製の
粉末加圧式消火器。消火器
は雨ざらし状態で放置さ
れていた。小学生が重体にな
った15日の事故翌日から18日夕ま
でに、広域消防局管内(佐賀
多久、小城の3市)の5署
6分署・出張所で「少なく
とも30件以上」の問い合わせ
があった。佐賀市消防防災課
にも複数の相談があつてい
る。

「処分方法を教えて」「消
防署で処分してくれるのか」な
どの内容が多く、破損や腐食
がないかを聞き、処分が必要
と判断した場合は、消防設備
業を雇用している業者が有料
で引き取っていることを伝え
られる。自治体のごみ回収に
は出すことができず、消防署
でも処分していない。

佐賀広域消防局予防課は
「ほとんどの消火器は製造
年から8年が耐用年数。外
観に異常を感じたら購入先や
業者に連絡してほしい」と話す。

福岡でも67歳
顔に直撃、軽傷
16日午後3時15分頃、福
岡県行橋市沓尾の民家で、
「破裂した消火器が夫の顔
に当たった」と妻(69)から
119番があつた。夫(67)
は下あごを7針縫うなどの
軽傷。県警行橋署が原因を
調べている。

発表によると、消火器は
粉末加圧式で高さ55㌢、直
径12㌢。十数年前から納屋
に置いていたが、廃棄する

火器が破裂し、顔に直撃を
受けた小学生男児が重体に
なった事故を知り、廃棄し
ようとしたという。

古い消火器処分法
問い合わせ相次ぐ
破裂事故で広域消防局

火器の破裂事故が続いたた
め、佐賀広域消防局に消火器
に関する問い合わせが相次い
でいる。外観に異常がある場
合は、専門業者に引き取つて
もらうようアドバイスしてい
る。

小学生が重体になった15
日の事故翌日から18日夕ま
でに、広域消防局管内(佐賀
多久、小城の3市)の5署
6分署・出張所で「少なく
とも30件以上」の問い合わせ
があった。佐賀市消防防災課
にも複数の相談があつてい
る。

「処分方法を教えて」「消
防署で処分してくれるのか」な
どの内容が多く、破損や腐食
がないかを聞き、処分が必要
と判断した場合は、消防設備
業を雇用している業者が有料
で引き取っていることを伝え
られる。自治体のごみ回収に
は出すことができず、消防署
でも処分していない。

佐賀広域消防局予防課は
「ほとんどの消火器は製造
年から8年が耐用年数。外
観に異常を感じたら購入先や
業者に連絡してほしい」と話す。